

シンポジウム

日 時： 9月23日（月） 14：00～16：00

会 場： 14号館201教室

テーマ： 共生社会の実現に向けたスポーツのあり方を問う

司 会： 佐藤 豊（桐蔭横浜大学）・深見 英一郎（早稲田大学）

演 者： 菊 幸一氏（筑波大学）

スポーツ文化論と新学習指導要領の視点から

田中 暢子氏（桐蔭横浜大学）

パラリンピック推進の視点から

山口 香氏（筑波大学）

女性スポーツ推進の視点から

【シンポジウム概要】

2020年東京オリンピック・パラリンピックを次年度に控え、「共生社会の実現に向けたスポーツのあり方を問う(2019)」をシンポジウム・テーマとした。これまで、「スポーツ推進の価値を問う(2016)」、「運動部活動の未来を問う(2017)」、「スポーツの推進の新たな仕組みを問う(2018)」と、スポーツ教育学会として、スポーツそのものの価値を高め、推進するのかといった「スポーツについての教育」とスポーツによって何を得ようとするかという「スポーツによる教育」の双方の視点から、スポーツ教育学会の果たす役割について検討を行ってきた。2020年開催のオリンピック・パラリンピックレガシーの一つに多様なスポーツの拡大とスポーツを通じた共生社会への寄与が考えられる。例えば、東京都は、東京都スポーツ推進総合計画の中で、「障害の有無や年齢、性別、国籍等を問わず、誰もがスポーツに親しんでもらうためには、個人が抱える身体的・精神的・社会的なハンディキャップを踏まえた施策展開が必要」とし、阻害要因の解消とともに、スポーツを各々の状況に応じて楽しめる取組を進めるとしている。

本シンポジウムは、スポーツ教育に関心のある多様な立場の会員とともに、共生社会の実現に向けて、スポーツがその有用な教育の機会となり得る可能性を探っていきたい。共生社会にスポーツが貢献するための視点として、スポーツ文化論の観点と新学習指導要領の観点からみたスポーツ教育の可能性、パラリンピック推進の観点からみたスポーツ教育の可能性、女性スポーツの推進の観点からみたスポーツ教育の可能性について、各シンポジストからのご意見を頂き、スポーツ教育学会として果たすべき役割、現在の課題及びその解決策について知見を得る機会としたい。